

報告：原発問題をめぐる全体状況

＠第 87 回脱原発八千代ネットワーク定例会

2019 年 12 月 28 日 川井康郎

1. フクシマの状況

- (1) 12/23 の ALPS 汚染水処理小委員会にて事務局（経産省）は汚染水の海洋放出、水蒸気放出の 2 案に絞る案を提示。長期陸上保管、モルタル固化案を含めて議論継続となったものの政府の強行姿勢が顕著に。
- (2) 12/17 山形地裁は避難者訴訟において国の賠償責任を認めず。また、慰謝料請求（734 人、約 80 億円）に対して、5 人、計 44 万円を支払うよう命じた。全国 30 訴訟の中で 13 件目、最悪の判決)
- (3) 3/4 以降に帰還困難地域の一部が先行的に解除される予定。JR 常磐線の開通に伴う三駅周辺。表むきの「復興」の裏に、実態の「見えない化」と被災者の困窮が進んでいる。



2. 原子力規制と再稼働の動き

- (1) 稼働状況：運転中は 6 基（大飯③④、高浜③、玄海③④、川内①）。定期点検中は 3 基（高浜④、伊方③、川内②）。
- (2) 定期点検中の高浜 4 号機の蒸気発生器にて伝熱管（5 本）の損傷を発見。関電は異物の混入のせいとしているが、その特定は出来ていない（原因は不明のまま）。12/19 の規制委・関電公開会合にて施栓のうえ再使用を認める。
- (3) 11/27 に規制委員会は女川 2 号機の規制基準審査書案を発表（12/27 までパブコメを受け付け）。女川原発は東日本大震災の被災原発であり、建屋や設備が各所で損傷した。補修、安全対策費に 2 号機のみで約 3400 億円かかるだろうと。それでも再稼働するつもりか？
- (4) 12/16 中国電力は上関原発の活断層有無を調べる海上ボーリング調査を一時中断すると発表。本体の着工はおろか埋め立て工事再開の目処は全く立たず。

3. その他のトピックス

- (1) 12/18 和歌山県白浜町議会は核のゴミ受入れを拒否する条例を全会一致で可決。関電による使用済み燃料の中間貯蔵施設の設置は不可能に。「県外に中間受入れ施設を設ける」という関電の福井県への約束も反故になる。
- (2) 大型洋上風力発電の計画が相次いでいる。東北電力は GPI 社と共同で約 3000 億円を投じて青森県つがる市に 48 万 kW の計画。北欧のエクイノール社等も計画。2030 年には原発 9 基分に達する見込み。

<以上>